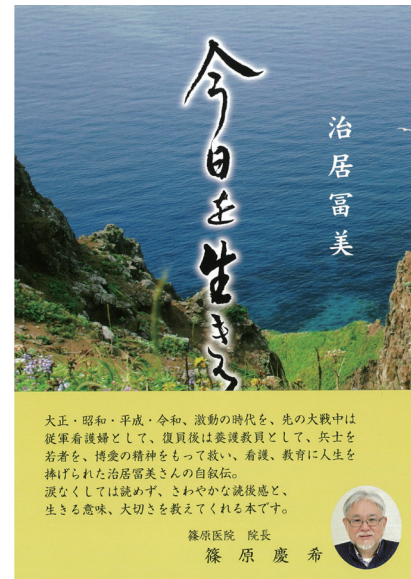


小野市・篠原慶希先生インタビュー

兵庫保険医新聞 8 月 5 日号掲載

元従軍看護婦の治居富美さん（95）が 4 年前に自費出版した手記を、主治医の篠原先生が千部増刷し、無料配布を行っている。神戸新聞の報道を受けインタビュー取材を行った。在宅医療と看取りの取り組みについてもお話を聞いている。

太平洋戦争の従軍看護婦だった治居富美さん（95）＝小野市市場町＝が 4 年前に自費出版した手記「今日を生きる」を、治居さんの主治医篠原慶希さん（69）＝同市粟生町＝が千部増刷した。中国・上海の陸軍病院で見た、生死の境で母を呼ぶ兵士など、描かれたありのままの戦争の姿に、父が軍医だった篠原先生が共感。戦後 75 年の今年、改めて多くの人に読んでもらおうと、私費を投じて無料配布する。（神戸新聞 2020 年 6 月 10 日付朝刊）



大正・昭和・平成・令和、激動の時代を、先の大戦中は従軍看護婦として、復員後は養護教員として、兵士を若者を、博愛の精神をもって救い、看護、教育に人生を捧げた治居富美さんの自叙伝。涙なくしては読めず、さわやかな読後感と、生きる意味、大切さを教えてくれる本です。

篠原医院 院長
篠原慶希

篠原先生が増刷した手記を無料で頒布、ご希望の先生は、078-393-1807・協会事務局まで



世話人会だより

第 360 回 7 月 15 日（水）小野市・加東市医師会館 参加 9 人

- ◆北播支部の会員数と組織率
7/13 現在 医科 176 人（91%）、歯科 86 人（61%）
- ◆情勢と医療運動対策など
「新型コロナウイルス感染症をめぐる医療情勢」について議論した。
- ◆次回世話人会
2020 年 8 月 19 日（水）19 時 30 分～ 小野市・加東市医師会館

お問い合わせは TEL 078-393-1801・5 長澤・平井 まで

新型コロナウイルス感染症関連情報特設ページを開設しました

新型コロナ関連の各種助成制度等のご案内や診療報酬関連情報を掲載しています。ぜひご利用ください。

兵庫県保険医協会

検索

URL : <http://www.hhk.jp/>



兵庫県保険医協会トップページの「新型コロナウイルス感染症関連情報」をクリック

兵庫県保険医協会

北播支部 ニュース

2020 年 8 月 5 日号 No.180

発行者 兵庫県保険医協会北播支部
支部長 林 武志

〒 650-0024 神戸市中央区海岸通 1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル 5 階

☎(078)393-1801 FAX(078)393-1802

<http://www.hhk.jp/>

第 36 回支部総会を開催

医療・社会保障を守る活動を



総会議事に 15 人が参加（加東市・滝寺荘にて）

北播支部は 6 月 27 日、加東市・滝寺荘で第 36 回支部総会を開催、2020 年度活動方針を採択した。林武志支部長（西脇市）はあいさつで「新型コロナウイルス感染症拡大により医療機関は厳しい状況が続いているが、地域医療を担う私たちが国民皆保険制度、社会保障を守っていかなければならない。北播地域の先生方から知恵をいただきながら、活発な支部活動を展開したい」と述べた。感染対策のため記念講演と懇親会は中止し、議事のみを開催、15 人が参加した。

（2020 年度活動方針を 2 面に掲載）

活動報告をする林武志支部長（写真上左）と司会を務める曾野瑞弘副支部長（写真上右）

2020年度活動方針

(2020年6月～2021年5月)

1. 身近なテーマで研究会や会員懇談会を開催し、支部活動への会員参加率を高める。
2. 市民公開企画を開催する。
3. 職員接遇研修会、医療安全対策研修会を開催する。
4. 会員への迅速で役に立つ医療情報の提供を行い、病診連携の前進や保険でより良い医療を目指す地域での取り組みを進める。
5. 社会保障推進協議会とともに自治体キャラバンに取り組む。
6. 協会活動や理事会・評議員会への参加を可能な限り強める。
7. 支部ニュースの内容をより充実させる。
8. 関係団体との協力・協同を進める。
9. 支部世話人会に気軽に参加できるよう会員への呼びかけを広げる。

歯科会員懇談会

改定の疑問やコロナの影響を語り合う

歯科部会は5月30日、小野市内にて歯科会員懇談会「2020年歯科新点数Q & A」を開催。川村雅之副理事長を話題提供者に、8人が参加した。新点数だけでなくコロナ禍の診療への影響なども交流した。横田裕一理事（支部世話人）が司会を務め、加藤擁一副理事長・歯科部会長があいさつした。参加者に行ったアンケート結果の一部を紹介する。（兵庫保険医新聞6月25日号既報）

＜アンケート結果＞

・少人数で集中して聞かせていただけたことが収穫でした。今後とも参加したいです。（三木市）

・コロナ禍で厚労省が出した「緊急性のない治療を控えることを促す通知」で受診抑制がかり、かえってP急発など、重症化して来院する症例が増えました。協会の改善運動のスタンスが分かって良かった。（三木市）

・院長交代を予定していますが、請求の知識の再確認と継承時の注意点が整理できた。（加西市）



参加者はそれぞれの疑問点について意見交換

市立西脇病院発熱トリアージ外来診療

寄稿

公的中核病院こそ地域の宝

前号に掲載した、西脇市立西脇病院・岩井正秀院長への、発熱トリアージ外来についてのインタビュー。実際に診察に出務した、木原章雄支部世話人より、発熱外来診療の経験について寄稿いただいたので掲載する。（兵庫保険医新聞5月25日号既報）

西脇市多可郡医師会の要請で、4月11日（土）午後より発熱外来に出務しました。当直室で貸与された術衣に着替え、外来テント内で防護ガウンとフェイスシールドを装着。13時30分より駐車場の車内で待機している患者さんを順次呼び出し、診察を開始。すでに必要十分な情報収集がなされており、病歴や経過の確認、バイタルチェック後、診察を行いました。

最初の3人は発熱したばかりで、軽度の上気道症状のみ、すでに軽快の兆候があり、事前確率からPCR検査は不要、症状が軽快するまで自宅休養を指示しました。

15時より飛び入りの紹介がありました。「60代男性で肺炎像あり、骨髄腫術後、コロナの除外を」とのことでした。CT画像上左細気管支周囲に散発性の浸潤影を認め、免疫抑制剤を服用しており、 $SpO_2 > 98\%$ で呼吸苦等の自覚はないものの、重症化のリスクがあり、PCR検査が必要と考え、病院長と相談の上、内科当直医を介して、保健所につないでいただきました。しかし、「土曜日の今の時間から、検体採取を回収するにはリスクを伴う、また受け入れ病院の病床確保といった調整にも時間がかかる。真に緊急かつ必急なケースであるか再考するように」と促され、患者さんと相談の上、週明けまで抗生剤を服用し、13日（月）の再診としました。

この外来は、あくまでトリアージに特化した外来で、紹介したらPCR検査が受けられ



発熱外来を行うテントの内部

るというわけではありません。接触歴など事前確率が高いと判断した場合や、年齢、合併症・免疫状態などから重症化のリスクが高いと考えられる場合など、PCR検査の必要性を見極めて対応しています。

発熱外来の稼働している間は、院長が院内で待機され、当事者の判断に責任を持って後押しをしてくださったことを、心強く思い、胸が熱くなりました。感染防御に必要な清潔ガウンやフェイスシールドなど、十分な装備を準備してくださり、ゾーニングや消毒・換気もしっかりしており、安心して帰宅できました。

【西脇市 木原 章雄】

